

# 避難所で無料上映会

東日本大震災の被災地で、映画の無料上映会を盛り動かすのが広がっている。上映するのは「明ぼつらいよ」「となりのトトロ」などの人気作だ。被災者に、日々の苦勞をいっしょに忘れて元氣を取り戻してもらおうのがねらいだ。

避難所となっている宮城県石巻市立藤小学校。今月中旬の夜、体育館が、映画館に早変わりした。

企画したのは、映画の自主上映団体「山形県映画センター」とNPO法人「山形国際ドキュメンタリー映画祭」。

大型スクリーンやプロジェクター、音響などをワゴン車で運び込んで、「男ぼつらいよ」を上映した。

映画を愛するのは、小学校の教室で避難生活を送っている被災者など約100人だ。映画館の座席はパイプ椅子だったが、スクリーンで見る映画は力があふれる。上映が終わると拍手がわきおこり、「見て良かった」「また来てほしい」といった声が続々と上がった。

## 「寅さん」「トトロ」も被災地へ



体育館に大型スクリーンを設置して、上映の準備を行う関係者（宮城県石巻市立藤小学校の体育館で）

「となりのトトロ」も被災地へ

「となりのトトロ」も被災地へ。上映の準備や問い合わせが来ている。また、避難所は被災者の生活の場。会場や上映時間帯について、災害対策本部の関係者やボランティアリーダーらとの調整が欠かせず、開催するのは簡単ではない。センター副代表の高沢隆さん(58)は、「活動資金も持ち出したまでに、岩手、宮城、福島、避難所などで計画的に上映

出してもらえればうれしい」と話す。

こうした上映会の動きは、被災地で広がっている。岩手県宮古市では、地元映画館が避難所を巡回して、子どもたちのためにアニメ映画の無料上映を企画している。また上野晋法活動を行っている一般社団法人「コミュニケーションシネマセンター」(東京都)は、日本映画監督協会などと協力し、毎月下旬から被災3県に映画を無料で出前するプロジェクト「シネマメール東北(仮称)」を計画した。

会を盛り予定だ。大人向けで「をせび被災者に届けたい」とは東北地方で撮影された作品「話をしている」などを上映するという。

「コミュニケーションシネマセンター」事務局長の岩崎ゆう子さんは「上映会では主催俳優や監督の舞台あいさつもできないが構想中です。夢や希望、生きる勇氣を与えてくれる映画」

山形県映画センター(02-3-641-0334)。  
コミュニケーションシネマセンター(03-5755-1573)。

読売新聞 2011年5月22日 ▶

# 映画で被災者元気に

東日本大震災の被災地をめぐって、映画上映会が各地で開かれ、被災者の心を癒やしている。東北地方では、被災地をめぐって、映画上映会が各地で開かれ、被災者の心を癒やしている。

## 全国のミニシアター団体

東日本大震災の被災地をめぐって、映画上映会が各地で開かれ、被災者の心を癒やしている。全国のミニシアター団体は、被災地をめぐって、映画上映会を開き、被災者の心を癒やしている。



映画応援団  
**シネマメール東北**  
東北に映画を届けよう! プロジェクト

4年間の記録 2011-2014

市民ボランティアや大手各社ら… 無料の

上映支援

映画で心の復興を

東日本大震災の被災地などを巡る無料の映画上映会が盛んに行われている。

岩手、宮城、福島などの避難所など

震災復興支援活動として無料上映された作品

Table with 2 columns: 上映先 (松竹, 東宝, 東映, 角川, その他) and 作品名 (男はつらいよ, ドラえもん, etc.)

※上映予定含む

「明るい映画を見たい」。などを求める要請が相次い



無料の巡回上映会で、「ドラえもん、のび太の恐竜2006」

「美しい現実が嫌にある人ばかり、せめて心を癒やす

津波による壊滅的被害を受け、外へ出た交流する

被災地の巡回上映活動



編集委員 鈴木剛一

「心の復興」映画で支援 仮設住宅で交流の場提供も



20世紀アーカイブ仙台(9月2日、宮城)での巡回上映活動。被災者たちに映画を鑑賞して気持ちを癒やしたいと、市内に巡回上映会を開催している。

東日本大震災の被災地では、巡回上映活動をはじめとして、映画による心の復興、支援の動きが広がっている。

東日本大震災の被災地で、活動弁士の語りを変えた、一九〇年代前半の無声映画の鑑賞が続いている。仮設住宅などで不自由な暮らしを強いられる被災者を元気づけるため、一般社団法人「コミュニティシネマセンター（東京都渋谷区）」が、地元団体と協力するなどして昨年秋から始めた。高層の野外スクリーンに映る映像に、朗々と響く弁士の声。被災者たちは、どこか切ない無声映画独特の雰囲気を感じて、今の生活の記憶を刻み込むように見入っている。（小田克也）



八月中旬のある夜、写したシネマセンターは、宮古市、宮城県石巻市に賑わった巨大テントの中で、の映画上映会を三回行った。（一九一七年と「勇散」）が上映され、近くの仮設住宅で暮らす人など七十人が鑑賞。同じ時を共にした。「勇散」ではチャプリン扮する警官が、貧乏さからか物を盗んだ女性に逆に品物を持たせる。権力や暴力を操って弱者に味方する。活弁士の片岡一郎さんが「さて、そのときチャプリンは…」などと間髪入れず話を進め、あたりが暗くなるにつれてスクリーン（縦一・五尺、横約一・五尺）が白い帆のまに浮かび上がり、観る顔を照らす。

この夜の上映会は、市民講座団体「せんだいスク



テントの中で上映されたチャプリンの白黒無声映画を見入る人たち。先月18日夜、宮城県岩沼市の里の社中央公園で（せんだいスクール・オブ・デザイン提供）

# 夜の被災地 よみがえる チャプリン

一期一会 弁士ライブ

## 心照らす無声映画

無声映画 19世紀後期に映画が登場してからは、俳優の

不足 原料

▲ 東京新聞 2012年9月2日



上映会の来場者に資料を手渡す白鳥まゆみさん

自らの被災した市民講座受講生の仙台市泉区、白鳥まゆみさんは「（上映作品の一部を無声映画にしたのは、見た目で大人の世界のもの悲しさが無いものかと思う）が、記憶をたどる映画の年々、上映。鑑賞した人を信じたい」と言葉に込めた。無声映画は弁士が代わり想像力をかきたてられ、白鳥さんが体れた「（弁士の）何通もマイクのトナルを弁士と、無声映画ならではの即興のしゃべりで補完を口にした。会場と一体感が生まれる。今、立ち入り禁止のフェンスが張られ、津波で壊れた今、このまじかれた建物の復旧工事が進む」と、一期一会の魅力。被災地では過疎化や地元経済の低迷に震災が上乗せ。年配の女性は「弁士なんて初めて見ると、楽しかった」と話をある。復興が進む中、シネマセンターの岩崎ゆう子事務局長は、無声映画の上映が「映画がもう一度あったのかもしれない」と話している。チャプリン映画「勇散」を上映し、今後の支援の上映会の幻想的な世界に心癒されることを願った。

▼ 石巻河北 2012年12月1日

# 石巻 街中にシネマの灯再び

「金曜映画館」で元気に

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた石巻市中心部に映画文化を呼び戻し、被災者を元気づけようという取り組み「ISHINOMAKI 金曜映画館（仮称）」が始まる。震災後、多目的施設として生まれ変わったみやぎ生協アイトピアホール（中央2丁目）を活用して、9月の開館記念フェスタを企画。年明けから毎月1、2回、金曜に上映会や映画にまつわる懇談、料理教室などを催していく。



大型スクリーンを配置し、観客100人を受け入れられるみやぎ生協アイトピアホール＝石巻市中央2丁目

内閣府復興支援型地域社会雇用創出事業として採択された「文化なしごと創出事業」の研修生で組織するチーム石巻を上映。フランスの洋画を舞臺が主催。被災地支援を続け、仙台を夫婦と送った少年ら「ISHINOMAKI」にも悲劇。カウリスマキQ 街づくりまっしげ、岡田 監製作品を配給している地越劇場などが共催し、みやぎ生協、アイトピア商店街復興組合などが協力する。午後7時からは開館記念ライブ。京都を中心にライブ活動を行っているシンガー・ソングライター原田博行氏と、11時半から昭和初期以降の川開きパレード、日和山の花見、石巻小の運動会、家族の食卓、海水浴などを盛り合わせた映画「あの頃の石巻」を無料上映。郷土料理「おくずかけ」も味わってほしい。

## 8、9日 開館記念フェスタ アニメや名画上映、ライブも

本格的な活動は年明け以降を予定。運営団体の「ISHINOMAKI」の関係者は「市中部には、五つの映画館があり、アイトピアホールは『東北北館』があった」と、街中に映画館を取り戻したい。同時に関連の文化も発信し、復興につなげたいと話している。

50人がある、エコバッグ作りなどのほか、来場者の方と触れ合ってもらおう。ワークショップに関連して午後1時から2時映画劇場版「ゲッターズ」が上映。スタジオシネマ（キネレム）「SBS 朝刊（朝刊）」（無料）、3時から映画「大鹿村騒動記」（500円）が上映される。

# 岩手沿岸キネマの灯消さない

## 黄色いハンカチに全国の激励込めて

### 宮古の映画館に1209枚届く

岩手県沿岸部唯一の映画館、宮古市の『シネマール』が、黄色いハンカチの活動を通じて、全国の激励を込めて、1209枚のハンカチを届けた。活動は、埼玉県浦和市（現さいたま市）の『シネマール』が、黄色いハンカチの活動を通じて、全国の激励を込めて、1209枚のハンカチを届けた。活動は、埼玉県浦和市（現さいたま市）の『シネマール』が、黄色いハンカチの活動を通じて、全国の激励を込めて、1209枚のハンカチを届けた。

**デジタル化寄付金で道筋**

デジタル機器の前に立つ柳村支配人（左）と数珠のハンカチを届けた戸坂さん

# 金曜映画館 老若男女でいっぱい

街中で映画を愛するSHINOMAKI金曜映画館が市民の間に浸透してきた。先日、石巻市中央2丁目のみやぎ生協文化会館アイトピアホールであった「謝罪の王様」の上映会には、多くの老若男女が詰めかけた。街中に、映画の灯が輝きともった。

**「街中で見るのいいわ」**  
市民に浸透、一番の入り

開場前から市民が訪れた。市内から小学3年の孫と見に来た幼女の女性。孫と手を繋ぎながら映画を見るのはやはり心が押さずきする。久しぶりで、こんな感情は「街の中を歩くと、100席赤い椅子はぼんやりと見えて、幼児から若者が、往年の映画ファンらが近代を愛するコメディ映画を観た。何度か映画を観た。何度も感動が起きた。言葉に表すことができない。

## 次回「ひまわり」上映 来月7日

金曜映画館の第9回上映作品はイタリア映画の名作「ひまわり」（日本公開1970年）に決まった。3月7日午後6時半から石巻市中央2丁目のみやぎ生協文化会館アイトピアホールで、ニュープリントで上映する。「ひまわり」はウィットリオ・デ・シーカ監督作品で、マルチェロ・マストロヤンニとソフィア・ローレンが共演、戦争によって引き裂かれた夫婦の運命を描いている。画面を覆い尽くすヒマワリ畑の美しさが圧巻。公開当時、ヘンリー・マンシーニの主題曲もヒットした。チケットは一般が800円（前売り600円）、高校生以下500円。前売りチケットは今月14日から販売予定。問い合わせはISHINOMAKI2.0 =0225 (25) 4953=へ。

# 被災地で無料上映 柳村さんら奨励賞

## 映画バンククラブ

被災地で映画の無料上映活動を行っている盛岡市の映画館「シネマール」の柳村一則・支配人（左）らに、映画評論家などでつくる日本映画バンククラブから奨励賞が贈られた。

「シネマール東北」と銘打って、2011年6月から2013年末まで、岩手、宮城、福島沿岸部を中心に、500回を超える上映会を行ってきた。受賞は「災害地における娯楽の必要性と、継続の重要性」の認識を喚起させる地道な活動が評価された。

柳村さんらに、映画バンククラブから奨励賞が贈られた。

柳村さんらに、映画バンククラブから奨励賞が贈られた。

岩手県担当の柳村さんは、約240回にわたり、三陸地域の仮設住宅や公民館などを回って上映を続けてきた。

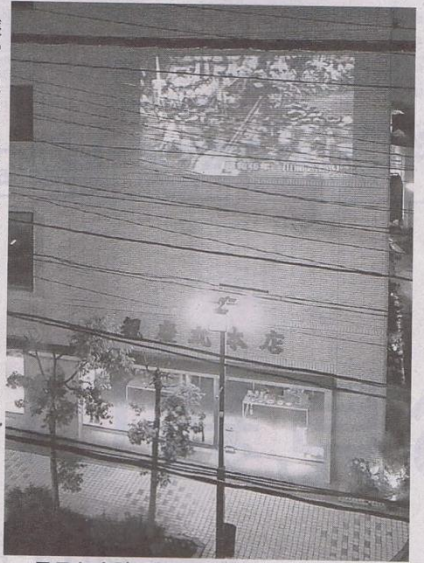
東京都内のホテルで行われた表彰式で、受賞者として柳村さんは「被災後、初めて笑った、子供たちからは『楽しかった。今度いつくるの』と言われた。それが活動の原動力になった。仮設住宅の暮らしは続き、震災直後より精神的には大変な時期が続いてきた。こういう時だからこそ映画の力が元気づけ勇気を与えてくれる」とあいさつした。

受賞のあいさつをする柳村一則さん（東京都中央区）

懐かしい二つの駅舎、川開きのみこし…

# ピルの壁に「昭和の石巻」上映

31日、観慶丸本店 8ミッフィルム第2弾



テスト上映で観慶丸本店の壁に浮かび上がる「昭和の石巻2」の1シーン＝石巻市中央2丁目

懐かしい昭和の石巻を、ぎわう通りに面した観慶丸本店ピルの壁に、あの頃の石巻が浮かび上がる。雨天決行。午後7時半から石巻市中央のイトピアで行われる。石巻川開き祭りでは「市民が撮った8ミッフィルム昭和の石巻2」

で、ISHIMORI NOMAKI 金曜映画館、コミュニティセンター（東京、NPO法人20世紀アーカイブ仙台、ISHIMORI NOMAKI 2・0）が連携して上映される。石巻駅の駅舎が二つあったころ昭和40年代の川開き祭りの熱気、家族連れらが楽しそうに憩う

映像や写真提供呼び掛け 懐かしい映像や写真の収集、保存活動に取り組む20世紀アーカイブ仙台は、昔の石巻の様子を撮らせたフィルムや写真の主催。

昨年、好評だったことから、今年も実施する。新たに市民から募った8ミッフィルムや写真を基に編集・制作した。石巻駅の駅舎が二つあったころ昭和40年代の川開き祭りの熱気、家族連れらが楽しそうに憩う日と山公園の様子などが収められている。上映時間は約25分。編集に携わった20世紀アーカイブ仙台の坂本英紀理事長は「活気のある

▲ 石巻河北 2014年7月26日

金曜映画館で披露

## 被災者の強い意思に感動

ヒュー・ジャックマンさんからメッセージ



「レ・ミゼラブル」熱気 11回目の上映会で、会場となった、みやぎ協賛文化会館イトピアホール（石巻市中央2丁目）には、今まで最高の約110人の観客が詰め掛けた。メッセージは上映前に披露。被災地支援として

### メッセージ全文

皆さん、こんにちは。ヒュー・ジャックマンです。2011年の東日本大震災及び津波の被害に遭われた皆様のために、映画「レ・ミゼラブル」が特別上映されることをとても喜んでおります。当時、大災害のニュースを見た時は胸が張り裂ける思いでしたが、想像を絶するような悲劇から立ち上がり、復活しようと努力されている被災者の方々の強い意思に深く感動しました。私の心は被災者の皆様とともにあります。今日はぜひ映画を楽しんで下さい。どうもありがとうございます。

夢と希望を持つて闘ったと語った。民衆のエネルギーを（日本アカデミー賞協会賞の力で描いた「レ・ミゼラブル」は、昨年から被災地支援の復興のエネルギーになるように今後も映画を通して支援していきたい」と話した。もういちど「親子試写会」 来月10日、石巻市中央2丁目、イトピアホールで、家族帯同の親子試写会が、8月10日午後7時半から10時30分まで行われる。

▲ 石巻河北 2014年7月19日



第10回上映会「かくや姫の物語」には開場前から列ができたイトピアホール前

## 金曜映画館 街中に浸透

東日本大震災後、街中に映画の灯をもちと始まったISHIMORI NOMAKI 金曜映画館の上映会が先日、10回目を迎えた。館を飾った高畑勲監督の「かくや姫の物語」には若狭の市民が防犯、感動を共有し、回を重ねるとに街中映画館として市民の間で浸透してきた。被災地、被災した街中の新たな交流の場になりつつある。

### 節目の10回、開場前から列

（83）は「通りにも人の流れであらざる見聞されたいが生まれたい戻ってくる。現地スタッフの野田さん、映画が全滅したたさん（86）は「書かれたが、往時のきわどい重なるのは再会喜びの光景が現れる」と。映画館が街中に足を運ぶことがこんなに嬉しい。これらも感動を届けた」と話す。金曜映画館は、コミュニティセンター（東京）とISHIMORI NOMAKI 2・0が連携し、2012年12月15日に開館。開館から市民の列が、おもに午後7時半から10時30分まで、イトピアホールを拠点として、映画館の輪を広げてきた。満席に近い100人前、ポスターを育てた。後の市民が詰め掛、大入と感動的だ。第11回上映会は7月12日、イトピアホール。メッセージは上映前に披露された。ユージカ大伴「レ・ミゼラブル」を上映する。

▲ 石巻河北 2014年5月30日